

# 広報 土づくり

## 本年もよろしくお願ひ致します。

今回取材を受けてくれたのは穏やかで、優しく、大阪のスタッフからの信頼がとて厚い田村修さん。筋ジストロフィーのクライアントで、土屋が二十四時間365日の支援に入っています。

大阪で生まれ育った田村修さん。五歳で筋ジストロフィーを発症しましたが、小さい頃は、とても活発だったそう。

「友達と毎日、遊んでいました。学校が終わると、野球やドッチボールをしたり、走ったり。」

小学校から高校まで、田村さんは友達に囲まれて、普通学級に通います。

「中一からは車いすでしたが、使ったり、使わなかったり。高校では、放課後に車椅子サッカーをしていました。」

卒業後、田村さんはパソコンの専門学校に進みます。「絵が描きたくて。でも、下手なんです。」



### 【クライアントプロフィール】

名前: 田村修  
出身: 大阪府  
病名: 筋ジストロフィー

二十代半ば、田村さんは仕事を辞めて、自宅生活に。サッカー観戦、読書、映画鑑賞、そして車椅子サッカー。海外旅行にも！「フランスに一週間。ルブル美術館やノートルダム大聖堂などを見学しました。あちらは右畳なので、車椅子の移動はガタガタ揺れて大変でした。トイレにも困りましたね。バリアフリーもなかったの。」

田村さんは現在、独居ですが、以前はご両親と姉の四人暮らし。ワゴンちゃんもいました。とっても仲が良かったそう。

「昔はよく旅行に行きました。京都や鳥取の海。ずっと家族と暮らししていました。姉は今も近くに住んでいて、時々仕事の合間に訪ねてくれます。」

田村さんは専門学校を終えると、仕事に就きます。

「難波にある会社でプログラミンクをしていました。そんなに面白くはなかったですけど、プログラミンク言語が習得できました。」

ハワイのオアフ島やグアムまで足を運んで、お酒を嗜んだり、シヨッピングしたり。三十代では、目の見えない方とニューヨークでミュージカルや買い物、自由の女神、ワインを楽しんだとのこと。そんな田村さん、車椅子のサッカーチームにも所属して活躍していました。会長も約八年務め、大会の準備なども行いました。そんな田村さんが、人生で大切にしてきたことは…

「友だちです。」

その言葉通り、田村さんの周りには学生時代からの友達がたくさん。水道が壊れたら、すぐ直しに来てくれたり、田村さんの自宅に集っておしゃべりに花を咲かせたり。

田村さんは四十代までマスクの呼吸器を使用していましたが、次第に呼吸が辛くなり、五十歳手前で入院します。気管切開で人工呼吸器を付けるためです。けれど、この入院は田村さんにとって、とても辛かったそう。

「アレヒが見られないんです。だから在宅になって、気持ちが悪くなり、嬉しかったです。DASHで大好きなサッカーを一日中見られるから。」

田村さんは二十四時間重訪。介護スタッフとの関係は極めて良好とのこと。サッカーを見て、パソコンで将棋をして、スタッフとお話

をして日常を過ごされてきました。けれど一年ほど前、危篤状態に。生死の境をさまよいますが、見事に回復。三か月ほど前からは口から食べられるようになったとか。

「最初は月に一度から始め、体調も良かったので、週に一回になり、今は週二回。ペペロンチーノやヒレカツ、ステーキ、海鮮丼を食べています。好物はなんといっても肉！お酒以外では(笑)」

「外に出たい。鹿児島に行つて、お酒や焼酎を飲みたい。でも、どこでもいいから、外に出たい！」

そんな田村さんの夢を叶えるべく、土屋のMAITAびチームが動きまわす！

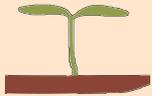
### 「コーディネーター」

高橋沙苗さんより「私は、昨年の五月頃からアテンダントとして田村さんの支援に入り、今年の夏からはコーディネーターになりました。私は当初、介護は未経験で、一度自信を失ったことがあります。そんなとき、田村さんからの「ゆっくりで大丈夫ですよ」というお声かけで、前向きになれたんです。田村さんはすごく優しく、私だけでなく、周りのアテンダントも気持ちの面ですごく支えていただいています。」

# SDGsの更なる 推進のために

さまざまな問題が叫ばれ、2050年には現在のシステムの運用は限界を迎えるといわれています。それを回避するために達成すべき「持続可能な開発目標」がSDGsです。

土屋では、横浜市立大学教授であり、SDGs/CSRの大家である影山摩子弥先生のお力添えの下、積極的な取り組みを進めています。まず、SDGs経営を推進することで長期的に収益の増大と安定を確保し、より質の高い社会貢献を広く展開、顧客満足度を高め、支援を必要とする障害者、高齢者の生活の質の向上を目指します。



昨年、取引銀行のご支援で株式会社土屋のSDGs宣言を作成し、ほぼ満点の評価レポートを頂くことができました♪ →

発達障害を持つ子供・学生の「個性」を伸ばし、豊かな未来を創造するための「就労」を目的とする！  
発達障害の特性が「強み」になる？

「高い集中力」「事実を」「こだわり」がIT-Web!

開催日時：2021年12月20日 17:00~17:45

子供の、デコボコの「デコ」伸ばして未来を切り開く

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

株式会社環境総合研究会代表 鎌田 健司 氏

年末には、SDGsの第一人者鎌田健司先生の講演会を開きました。この先、障害者やシングルマザーの採用促進、フードリカバリー、土屋のSDGs宣言で唯一足りていなかったサステナビリティの強化と、防災的な観点から再生可能なエネルギー問題にも取り組んでいきます。

株式会社土屋 SDGs宣言

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、積極的な取り組みを通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

2021年11月15日 株式会社土屋 代表取締役 高橋 敏之

当社のSDGsへの貢献

小さな声に応える誇り  
私たちの支援を求めるすべてのひとたちの期待に応える誇りを胸に、多様性が尊重される交差点を実現するため、強みない努力を行っています。

よく学び、よく笑う職場  
技能や知識向上の為の人材教育、独立支援制度の充実、働き方改革への取り組みのもと、やりがいのある職場を創生してまいります。

信頼される組織として  
命への、他者への、理念への責任、担っている社会的責任を自覚し、健全で優良な企業づくりを目指してまいります。

地域貢献  
すべての人が、住み慣れた地域や自宅付近らしく生活し始めるために、持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります。

SDGsとは  
Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)とは、持続可能な社会をつくるために、世界が抱える課題を17の目標と169のターゲットで整理したもので、2030年までに達成することを目指す。企業、地域社会のあらゆる人が、SDGsを実現するための取組を呼びかけている。



## 広報・土づくりへの ご意見・ご感想

今後取り上げてほしいテーマなどをお聞かせください  
また、株式会社土屋の取り組みについてのご意見もお寄せください。

ご意見・お問い合わせ窓口  
client@care-tsuchiya.com



株式会社 土屋

- 本社：岡山県井原市庵原町192番地2久安セントラルビル2階
- ホームケア土屋 46拠点(41都道府県)
- 訪問看護ステーション土屋 4拠点
- 土屋ケアカレッジ 15校舎
- デイホーム土屋 2拠点
- 相談支援 1拠点
- グループホーム 1拠点
- コミュニティホーム 1拠点



先日、中学2年生の娘が、「身の周りのバリアフリー化という題で学校のレポートを書くから、お父ちゃんが脳性麻痺だって書いても良い？」と聞いてきました。私は「もちろん良いよ」と答えたのですが、正直、改めて娘に問われドキッとしました。夫は、脳性麻痺という字面だけで驚く人も居るんだよ。名前つけた人のセンスが無さすぎる」と言っています。そういえば、私と夫との出会いは文章だけのやり取りが最初だったので、自分の障害名を打ち明けるのにとっても勇気が必要だったようです。まあ確かに、障害名がもうちょっとセンスのある名前になれば最初のイメージが変わるんじゃない？と思います。娘が産まれて十四年間、幼稚園、小、中学校と世界が広がると同時に友人知人が増えました。彼女には、障害のある父のことを認めてくれて、自分を可愛がってくれている沢山の人が周囲に居るといふ実体験を忘れず、色々な差別に対して冷静に判断する心の強さを身につけて欲しいと思っています。まあ、思春期・反抗期真っ只中でも父の障害のことを書くことと思つたのですから、既に身についているのかもしれないね。名前云々より、多様性を尊重して受け入れる、心のバリアフリーが広がった世の中に早くなってほしいものです。

ーもとゆめこー

家族もあるある 障害名にもセンスが欲しい